

進路通信

～ 汝の理想を星につなげ ～



青森県立木造高等学校進路指導部
令和7年3月21日発行 第5号

R6年度3年次進路決定先一覧 (R7年3月17日現在)

決定者数(3月17日現在)	
国公立大学	22
私立大学	44
短期大学	7
専門学校等	25
看護学校(准看含む)	7
公務員	18
就職	6
その他	6
計	135

国公立大学

【県内】弘前大学、青森県立保健大学、青森公立大学

【県外】北海道教育大学、釧路公立大学、名寄市立大学、宮城大学、山形大学

私立大学

【県内】青森中央学院大学、八戸工業大学、柴田学園大学、弘前医療福祉大学、弘前学院大学

【県外】札幌大学、日本医療大学、盛岡大学、富士大学、東北医科薬科大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北生活文化大学、東北福祉大学、仙台青葉学院大学、仙台大学、創価大学、東海大学、東京農業大学、神田外語大学、群馬パース大学、国際医療福祉大学、産業能率大学、日本医療科学大学、法政大学

短期大学

【県内】柴田学園大学短期大学部
弘前医療福祉大学短期大学部

【県外】仙台青葉学院短期大学

専門学校・大学校他

【県内】東奥保育・福祉専門学院、S.K.K情報ビジネス専門学校、青森県ビューティー＆メディカル専門学校

【県外】MCL盛岡医療大学校、岩手リハビリテーション学院、盛岡情報ITクリエイター専門学校、仙台ヘアメイク専門学校、仙台ECO動物海洋専門学校、仙台スクールオブミュージック＆ダンス専門学校、仙台接骨医療専門学校、仙台デザイン＆テクノロジー専門学校、仙台ビューティーアート専門学校、仙台理容美容専門学校、東北電子専門学校、東日本医療専門学校、HAL東京、東京ブレイメン動物専門学校、品川介護福祉専門学校

看護学校(准看含む)

【県内】弘前総合医療センター附属看護学校、八戸看護専門学校、弘前市医師会看護専門学校

【県外】大宮医師会立准看護学校

公務員

【国家公務員】国家一般職

【地方公務員】青森県一般事務、青森県教育事務、青森県警察事務、青森県警察Bつがる市役所、鶴田町役場、弘前市消防、青森県非常勤事務員

就職

【県内】高満歯科医院、株式会社小山内板金製作所、株式会社三和技術

【県外】日本郵便株式会社東北支社、いすゞ自動車東北株式会社、公益財団法人日本相撲協会



進学は初の新課程での共通テストがはじまった影響からか、一般受験を避け、推薦で早期合格を考える受験生が比較的多く見られたため、国公立の推薦（総合型・学校推薦型）では苦戦した生徒が多かった印象です。しかし、推薦の結果を真摯に受け止め、最後まで必死に勉強を頑張った生徒たちは、最終的に一般試験で大学に合格することができています。捨て教科をつくらず、国公立大学受験を意識した教科科目で共通テストを受験した生徒が、一般受験で出願可能な大学の選択肢を増やすことができたためと考えられます。

公務員は行政職が好調で、1人でいくつもの合格を勝ち取った生徒が複数人いました。ただし、そのためには1次試験を突破できる学力があるのが大前提です。特につがる市役所など人気の市町村役場を志願予定の生徒は、公務員模試で校内トップの成績をとるくらいの気持ちで頑張ってください。公安系は消防職が相変わらず倍率が高く、厳しい状況がしばらく続きそうです。どうしても高校卒業後すぐに就職したいのであれば、単願ではなく自衛官などとの併願も考える必要があります。民間就職も高校生有利な状況とはいわれていますが、人気の職種（一般事務など）はやはり厳しい競争を勝ち抜く必要があるようです。良い条件の求人は就職試験解禁後すぐになくなります。早めの準備を！

次年度に向けて

3学期は次年度の「0学期」とも呼ばれます。

「進級したら勉強頑張ろう」と思っている生徒もいるかもしれませんが、一般試験（共通テスト利用）で大学に進学する場合、本番は「3年次の1月」です。つまり、「本番1年前」は「2年次の1月」です。もう共通テストまで1年を切った、ということになります。総合型選抜や学校推薦型選抜で進学したいと考えている生徒は、受験本番はおおよそ9月～11月頃です。小論文や面接の練習は1ヶ月前では対策が不十分になるので、できる限り早い時期から始めなければなりません。

就職試験も9月中旬から解禁されます。出願書類の提出は9月上旬となるため、そのときまでに就職したい企業を決めて、夏休みの間に出願書類を用意し、面接のための練習をする必要があります。公務員の出願はさらに早く、国家公務員の出願は6月下旬、地方公務員は各都道府県の自治体によって異なりますが、7月～8月の間に出願することになります。試験本番は9月から始まります。

受験の準備は早く始めることに越したことはありません。受験本番にベストを尽くせるようにするには、次の年次になってからではなく、今から準備を始めていきましょう。



TO DO

【進学】

・オープンキャンパス・学校見学に参加しよう！

推薦の志望理由書・面接において面接官が一番知りたいことは「なぜこの学校を選んだのか」ということです。その理由を明確にするためには、やはり現地に行くのが一番です。模擬授業や進学費用の話なども聞けますし、専門学校ではオープンキャンパス等への参加が推薦の条件や学費減免の条件になっていたりします。是非積極的に参加し、「絶対この学校に進学したい！」という具体的な理由を探してください。

・自分の行きたい分野に関する知識を深めよう！

推薦で受験する生徒に最も求められるのは、「その学校で何を学びたいかがはっきりしていること」「将来どうなりたいかという明確なビジョンがあること」です。しかし、ただこうなりたいという夢を語るだけでは、本当にそのような資質がある生徒なのかを大学側が判断することはできません。具体的な根拠が必要です。そのため、「高校時代にどんなことを頑張ってきたか」も大切な判断材料となります。また、「本当にその分野に興味を持っているのか、この分野の勉強を継続できる能力があるのか」というのも試験で判断していくことになります。そのため、推薦であっても面接だけでなく学力試験、口頭試問、小論文を課す学校も多いです。これらに対応するためにはその分野に関する深い知識が必要です。専門分野に関する知識をつけたり、それに関わるさまざまな体験活動に参加したりして、それらの活動でどんなことを学んだかを振り返り、「高校生でこんなことを頑張った！」と自信を持って話せるように準備しましょう。

・体調管理に気をつけよう！

欠席が多い人は推薦の出願条件を満たせません。入院等の特別な理由がない欠席（ただの体調不良など）がすでに10日近くある人は、これ以上欠席を重ねないように体調管理に気をつけましょう。

【公務員】

・春期講習に参加しよう！

1次試験突破のためには学力がなければ話になりません。公務員のための講習に参加することは学力アップへの近道です。面倒だから、遊びたいからといってサボらないこと。もう受験は始まっています。

・自分の行きたい都道府県、自治体について知ろう！

都道府県や市町村のホームページには、採用に関する情報だけでなく、インターンシップやボランティアの情報も掲載されることもあります。そうしたイベントに積極的に参加したり、希望する自治体に就職した先輩などの話を聞いて、2次試験の面接に活かせるようにしておきましょう。

【就職】

・やりたい職種を決めよう！

事務・販売・サービス・建設・運搬・保安等、様々な職種がありますが、職種の希望は決まっていますか？まずはやりたい職種を見つけましょう。職種といっても具体的な仕事内容は企業によって異なります。希望の職種を見つけたら、対象となる企業の求人票を見てみましょう。

・一番重要な勤務条件は何だろう？

「場所」「給料」「休日」「職種」「福利厚生の内容」「転勤の有無」「寮の有無」など、働くうえで重視したいことはたくさんあると思います。ですが、すべての希望を満たす求人はほぼありません。そこで、どうしても譲れない条件を1つ考えておくと、膨大な求人から自分の望む勤務形態の会社を見つけられる確率が高くなります。